

邦楽現代

PRO MUSICA NIPPONIA

第23号 1989年
23 秋

特集●座談会

日・韓伝統楽器合同演奏への旅

特別寄稿●岸边成雄

対談●中島靖子↕山岡知博



巻頭言

いつだったか、集団結成時からメンバーの一人に「集団の若い人々は、あの『ディヴエルティメント』を初演した頃の先輩に比べるとずいぶんと上手くなった」というようなことを言ったところ、そのヴェテランは、「とんでもない、連中は我々に比べて音楽がないのだから上手くなったとは言えないんだ」とうなずく同世代の仲間と共に切り返してきた。

そう言われても、当時何回やつても出来なかった個所が今の若者の手にかかるとうそのように出来てしまうのだから仕方がない。さつさと兜を脱げばよい、と言ったかどうか忘れたが。次の瞬間、もう少なからず感心していた。「音楽がなけりや上手くない」と即座に言い放つこの古・老・達・の雄々しく気高い演奏家魂を私は美しいと思えた。

二十五周年。その記念号には「よくぞここまで」と長沢代表の感慨が載った。その並々ならぬ歴史には、「形」ではなく、「初心」の燃焼が興ってやまなかったことを今更のように知らされる。思えばあの会話はそんなことを語ってくれたのだった。

佐藤 敏直 (作曲家)

目次 Contents

巻頭言 佐藤敏直 1

特集／座談会

日・韓伝統楽器合同演奏への旅 2
石田一志・三木稔・三橋貴風・奈良義寛
田村拓男 (司会)

特別寄稿

日本音楽集団を讃える 岸辺成雄 7

対談 中島靖子 ↔ 山岡知博 9

現代邦楽事情 — その6 — 田中隆文 11

日本音楽集団定期演奏会から

第106回定期 上野 晃 13
第108回定期 富樫 康
第109回定期 富樫 康

平安京スペクタクル・フランス公演報告

坂井敏子

美恵子の三昧線みてある記⑥ 野口美恵子 17

はうげん抄

日本音楽集団の主な活動記録

日本音楽集団の今後の予定

日本音楽集団メンバー表

お知らせ・編集後記

特集 座談会



出席

石田一志(音楽評論家)
三木 稔(作曲家・本公演芸術顧問)
三橋貴風(団員・尺八)
奈良義寛(事務局長)
田村拓男(指揮・司会)

《日・韓伝統楽器合同演奏への旅》



「白」(朴範薫作曲)を演奏中の韓国中央国楽管絃楽団と日本音楽集団 指揮・朴氏 1989年9月8日 ソウル・国立劇場

日本音楽集団は九月五日から九月十三日まで、創立二十五周年の記念事業の一つとして初の韓国公演(第十六次海外演奏旅行/文化庁・国際交流基金助成)を行ったが、韓国中央国楽管絃楽団との合同演奏で「SOUL」(三木稔作曲)と「白」(朴範薫作曲)を初演し、ソウル、光州、全州、大邱の各地で聴衆の熱狂的な歓迎を受けたことは、両国の音楽史上、大きな出来事と言える。また韓国中央国楽管絃楽団は十一月二日に行われる日本音楽集団創立二十五周年記念演奏会(第百十回定期)に向けての来日が決定、東京での合同演奏が再現されるなど、今回の日・韓国伝統楽器たちの交流は大変意義深いものがある。

韓国公演に同道した諸氏に語ってもらった。

日本文化の源流への旅を企画

田村 念願の韓国公演が実現しましたが、終わってみると、何故かっと早く韓国に行かなかったのかという思いがしました。民族的にも、宗教的にも、また儒教の精神を深く受けている点でも非常に近い隣人だし、音楽や楽器にも共通部分があることを大いに感じてきたわけですが、最初に企画を担当した奈良事務局長からお願いします。

奈良 今年、集団は創立二十五周年を迎えるにあたり、何か記念的事業をしたいということで、二年前から企画を立ててきました。昨年三月、集団が米国公演をしている頃に、日・中・韓の共演がソウルであり、三橋君が出演したことが最大の契機になったと思います。当初は第二回目の中国公演を行うことが先にあったけれど、それに韓国を含めた東アジア公演として、日本文化の源流たるところを中国大陸、朝鮮半島にもとめる旅をしたらきつと面白いものが出来るだろうと思ったわけです。しかも第一回目の中国公演で中央民族楽団と共演し、成功をおさめている経験から、韓国でも民族楽団と共演し、一方的なコンサートとは違う真の国際交流をしてこようということに眼目がありました。

結局、天安門事件のために中国公演は残念ながら無期延期とし、韓国公演だけが実現したわけです。

三橋 去年の、日・中・韓の共演。

は、ブレ・オリンピックのイヴェントの一つとしてKBS(韓国放送局)が主催したもので、一般公演と国楽の組織の民楽会の人たちのためのレクチャーコンサートなどをソウル、大邱、釜山でやりました。日・中・韓の文化が一堂に会して行われることは、彼等にとって初めてのことであり、国交のない中国の演奏家が民族楽器を持って来ることに非常に興味があったようで、各地でたくさんのお客さんが入った。例えば日本でNHKが主催しても、あのように多くの人は集まらないでしょう。韓国の民族楽器は、日本人が邦楽をとらえる以上に彼等の生活と密着させてとらえており、韓国の人が持っている民族音楽に対する意識の高さを感じましたね。

先ず日本の過去の罪を償い…そして、それを超えた互いの魂を振り起こす「三木作品」

田村 彼等の民族音楽が生活と密着しているという点は私も感じましたね。今回、合同演奏曲二曲が生まれましたが、日本側からは三木さんの「SOUL」。この曲を書くに当たった三木さんの思いをどうぞ。

三木 韓国の楽団との共演のきっかけは、'83年頃、朴さんの楽団シナウイ・アンサンブルが来日した時、石田さんから紹介して戴いた。僕の個人的希望として、昔からアジアのエキゾチック・オーケストラを作って行きたいということがあり、各民族の現状に積極的に拘って行きたいと思っていた頃でした。中国との共演を終えたあとだったし、シナウイ・アンサンブルを聴いた時、中国の民族楽器がビッチの問題などを完全にクリアーしているのに対して、韓国の場合にはビッチを伝承のままにしているの、共演の作品では集団側もそれに対応できるアンサンブル形にしなければと考えていました。しかし、この春、朴さんのオーケストラを聴いた時には、ビッチが随分と整理されており、変身していたので、共演が多数のオーケストラ方式でも柔軟に対処できるだろうと考え直しました。

も、むしろ連日テンポの一章の方を生きて生きた無難にこなしてしまいましたね。秩父屋台囃しをいれるにについては三橋君から提案があったとか。

三木 そうなんです。初めは全部新しく書くかと思っていましたが、三橋君からの提案もあって決心しました。打楽器セクションを新しくして入れましたが、これは「マリンバ・スピリチュアル」という僕の曲の中でも使っています。世界中のすべての楽器で共演できるという可能性を

開拓しておくことは、集団にとっても可能性を開くことになるので最初の着想に置いたのです。

田村 なるほど。結果的にみて成功したのではないのでしょうか。

奈良 昔(阿波踊り)、今(秩父屋台囃し)という感じですか。(笑い)

三木 リズムの体系は、世界中に大きく分けて二つある。一つは8ビート乃至16ビート型とスイング型。このどちらも常に僕の中で揺れ動いてあります。



奈良義寛



三木 稔

韓国の新しい音楽運動が集団によって勢いづけられた。

田村 石田先生はソウルで立会われ、朴さんの「白」、三木さんの「S.O.U.L」の合同演奏を目の当りにされたわけですが……

石田 直接的な出会いのきっかけとなった朴さんは、有能で精力的な作曲家であり、指導者です。彼は日本留学の経験もあり、日本に特別な親近感を持っていました。特に音楽の上で日本と交流したいという希望を持っていて、それが大きな伏線として今回の企画が進んで行っていると思います。

僕は彼の在日中に、彼から少しずつ韓国の音楽事情を聞いていました。が、六年ぐらい前から一年に一度くらい訪韓して韓国の音楽界と関わりを持つようになり、洋楽系の作曲界、いわゆる現代音楽の状況を近しく観察することが出来るようになりました。

その中で感じたのは、朴さんより上の世代の方々は、むしろ日本のその世代と同じように欧米に留学し向こうのアカデミックな、そして前衛的なものを勉強して来たという点で、ちょうど日本と平行してアジアから欧米を眺めているようだ、という点です。

互いに隣国に無関心で、遠くばかりを見ていたようだと。やっと最近になり、日本の現代音楽に対する関心もかなり高まってきた。一つには現代音楽の在り方が、同じようにヨーロッパ指向であっても、日本の現代音

楽のように客観視して自分たちの置かれている特別な音楽的環境や伝統を見直さなければいけないという時期にようやく来たのだと思う。

韓国においては、日本に比べて民族音楽や宮廷音楽が生活に密着しているだけに創造音楽、芸術的に新たなものを開拓していくことに消極的であり否定的であるケースが多い。その中でいく人かの方たちが、現代音楽の中に民族音楽的要素、美学を導入されることで世界的な成功を収める例が少しずつ出てきた。やっと現代音楽の中で韓国あるいはアジア独自の音楽を育てようという意識が始まった段階だと思っています。

朴さんは、国内では先駆的な立場にあるが、具体的に、直接的なお手本であろう日本音楽集団が目指しているような民族楽器、伝統楽器による新しい音楽の開拓の努力を始めたところといえるでしょう。しかし彼は先駆的なだけに孤立しているとも見える。現代音楽界が日本の作曲家たちとの交流を盛んにするようになり、日本の作曲家たちとの立場を手本にするようになってきた。その中で、今回の朴さんと集団との共演は、客観的に見て、彼の音楽的立場、行動を大変うらづけ、支持する力となったと思います。

伝統楽器の身近さゆえの制約、楽器の機能に関する意識は閉ざされて

いる段階ですが、作曲家朴さんだけでなく、多くのプレーヤーがそこに参加したことによって、彼らの随分な意識改革になったように思います。日本音楽集団の二十五周年記念事業という大きな意義もあったけれど、僕として嬉しかったのは、韓国の新しい音楽運動が集団によって勢いづけられたことです。その動きの大きさ、影響力の大きさを何より評価してよいと思います。

三木 僕も全くそう思います。朴さんの楽団は大変若いし、有能な人材がいるので、ものすごい勢いで変わっていくと思う。集団側よりも韓国側に大きなインパクトとなったと思われるし、我々もそれを次の大きなエネルギーにして行かなければと思います。

奈良 集団の訪韓がそのように評価されることは大変なことですね。

海外公演は今回が十六回目になります。81年の第八次海外公演で「ゲヴァントハウス・オーケストラ」と、急の曲」を共演して以来、全国各地の楽団との共演を念頭に入れて交流してきました。単に日本の文化の紹介にとどまらず、その国のオーケストラや民族楽団といった、その国の文化と直接交流して影響しあえるようになってきたということは、やはり集団の二十五周年という歴史の証しとも言えますね。

田村 今回のように民族楽団の若い人たちと一緒に音楽をし、友達になれたことが、将来の計り知れない財産になるわけですね。



田村拓男



石田一志



三橋貴風

八割方の大学に音楽の学部を持っている

石田 韓国では音楽文化に対する扱いに独特なものがある。日本の東大にあたるソウル大学にも School of Music として University の中に独立して音楽大学があり、国楽、洋楽の二部門がおかれている。朴さんが教えている中央大学でもそうだし、八割方の大学に音楽の学部を持っている。

文化政策の面では、丁度朴さんが教育を受けた朴政権の時代には、国楽を浸透させるための意識的運動があり、大学の教育の中で国楽が重視されたし、国楽専門の学校ができた。

国楽のアンサンブルについていうと、日常性が強いので、雅楽系の伝統は動かし難いものとしてそのままあるが、民族系のは、テレビ等でみてもほとんど伴奏が多い。民謡等の伴奏という形で民族音楽を普及させようという姿勢がうかがえる。その中で朴さんがやっていることが

創立当時の集団の五年分を一週間でやってしまった？ 韓国合奏団

奈良 彼等にとって「SOUL」は難曲だったのでしょか。

三木 「楽章はモデルがあったので比較的やり易かったでしょうが、一楽章のようなタイプは初めてということで大変だったようです。

三橋 五月にも朴さんの楽団の定期

全く新しい形のものであるとしたら、今度の作品を含めて、自立した新しい伝統音楽を作ろうという強い姿勢を持っていることになると思う。

田村 朴さんの話では、韓国では洋楽、国楽の知識を兼ね備えた作曲家が三人位しかいないと嘆いていました。日本も今そこそこの洋楽系の作曲家が伝統楽器のための作品を書くことは、当初は同じような状況がありましたね。

石田 日本でも時代、地域、流派等によって様々な奏法・楽器・音楽がありますが、それ以上に韓国には地方々々によって独立した音楽がある。それらを学校での国楽教育や全国放送を通して広く国民に聴く機会を与え、全体像を整え、普遍性というか、韓国的な世界を統括してとらえようという動きがやっとなってきた段階のような気がしますね。

演奏会に招かれてヘコンチエルトの夕べに出演しましたが、その時の韓国の作曲家たちの作品を通して聴くと、創作パターンが定型化しているように思えた。それは楽器の特性や古典的奏法を引用することから来るのかも知れないが、三木さんの「S

OUL」のような音楽は彼等にとって初めての体験だったと思う。それにしては彼等はよくやったと思う。

三木 日に日にどんどん良くなっている。創立当時の集団の五年分を一週間でやってしまった感じ……

(笑)

奈良 やはり作品的に演奏者に刺激を与えるものがないと……

三木 その辺はすごく難しい。我々は二つの狭間にいる。僕ら「現代音楽」作曲家的なスタートをしたが、集団と共に歩み、演奏活動を共にし、聴衆といつも一緒にいる中で作曲態度を変えていった部分があった。いろいろ批判を受ける中で痛みもあったけれど、今までにない新しい独自のものを生んで行かなければ未来はないわけで、創造への努力は大変きついで、進めて行かなければならなと思っています。

奈良 韓国の楽器だけで曲を委嘱されたら引受けますか。

三木 中国からもたくさんいわれているけれど……気持ちがありますね。



同楽団（指揮・田村 1989年9月12日大邱市）



ル風景



公演後のパーティーでうちとける日・韓の団員たち（1989年9月8日ソウル）

国家や体制の違いの中で、 純粋な音楽的共通の場を求める 可能性は残されている

田村 今回、私も指揮者として合同演奏をまとめる立場にあり、緊張して臨みましたが、楽器の性能からくるバランスの問題、ピッチや指揮を見る技術のこと等、若干の問題はありましたが、一つの曲を通して大変友好的に、またお互い積極的な姿勢でやり終え、さわやかな充足感といったものを覚えましたね。三橋君は今回が五度目の訪韓とのこと、尺八とともにすっかりファンを作っていたようですが。

三橋 一日一日と長く成っていく彼らの順応性は素晴らしいと思いましたが、特にリズム感の良さ、「SOUL」第二章の秋夕屋台囃しなど、我々の初演の時を思うと、何か彼等の特性を感じました。

昨年のレクチャーコンサートの時のお話ですが、「テイクム（大等）」は一本でやるのに、尺八は何故、何本も持ち変えるのか」とか、あるお坊さんが「私の寺に穴が一つしかない笛がある。尺八には穴が五つもある。五つもないと音楽が吹けないのか」と質問を受けました。また、テイクムで歌い手の伴奏をする時、キー（調子）が合わない時には歌うのを諦めてもらおうとです。（笑い）テイクムから発せられる音色には徳があると

いわね。伝統音楽に対する思想の中には、触れたり、変えたりしてはいけない大切なものがあるらしい。指穴の調律法が平均率ではなく、一つの指穴で二つ三つの音を作るのは尺八と同じですが、開放の筒音（ピッチ）が尺八では決まっているのに対してテイクムでは決まっていなくて、バラつきがあります。またコンディションにより、またコンディションによりピッチが微妙に異なるわけ、バラつきがあります。朴さんとも話しましたが、今後アンサンブルを発展させるためには、管楽器などの楽器改良が不可欠だと思います。管楽器が合わないと感じる場合は合わせようがないのですから、それは古典的奏法や楽器を否定することではなく、そのどちらも演奏できるようにチームになることが大事だと思います。

三木 かつてインドネシアの外務大臣と話をした時、我が国には数々のピッチがある、という逆の誇りにしていた。一つの面白い考え方がピッチリもした。共同作業を行う時には、それは欠点になるわけで、いろんなものがある中で選択が必要であり、一緒にやる時のための共通なキーを見つけないかならないと思うのです。



「SOUL」（三木総作曲）を演奏中の日・韓



華やかな横断幕をつけた移動バス



リハーサ

特別寄稿

日本音楽集団を讃える



東京大学名誉教授
東洋音楽学会会長

岸 辺 成 雄

創立二十五周年おめでとうござい
ます。この記念すべき年に、「邦楽現
代」への寄稿の御依頼をうけ、喜ん
で所感を述べてさせていただきます。

私は今年七十七歳になりました。
年と共に日本伝統音楽に沈潜する傾
向を自ら感じます。世界の諸民族の
音楽を長年にわたって研究した結果、
私が音楽の最も深いところに入り得
るのは、結局日本音楽だと思ふよう
になったのです。そして、芸術と学問
に対して「うそ」をつくまいという
心境に、ようやく達しました。この
ような考えと心境に達した一つの動
機は、度々外国に行って、西洋人の
西洋以外の音楽の研究に接した時の

感想にもあります。「自国以外の音楽
の最も深いところに入ることが
非常に困難である。しかし他国の者
(アウトサイダー)も、その国の人(イ
ンサイダー)の見失うものを時々発
見する。だからその国の人と他国の
者との共同研究が、真の研究への道
である」という感想です。これはい
わば私の信念となりました。このよ
うな信念に基いて日本音楽集団を眺
めて見ます。

集団の性格

昭和三十年頃から「現代邦楽」の
名称と内容が定着しはじめた時、そ
の大きな柱となったのは邦楽による

現代的な合奏です。近代・現代の西
洋の多音的大合奏にならって古い合
奏を越えたものを創造するです。は
じめ等を中心とし、次に尺八が加わ
りました。機能と声法や十二律を自
由に演奏する技術が開発されました。
洋楽器の作曲家の参加が増すに従っ
て、その勢は加速されました。洋楽
における現代音楽も導入して多音性
もリズムも、純邦楽品の古い人には
とても追いつけない新しい様相を呈
しています。邦楽だとか洋楽だとか
区別する必要のない世界です。個々
の作品に接すると、また実験段階にあ
ると思われものも多いのですが、「現
代邦楽」は定着し始めているようです。

ところが、集団の半世紀を眺めると、現代化の中に、伝統音楽への執着が明らかに見られます。邦楽器のみを用いるのですから、その音色が邦楽的であるのは当然です。それに新しい奏法の開発による新しい音色が加っています。逆に長年かかって洗練されて来た邦楽器の本来の音色を捨てることもあります。奏者の技術が本来の音色を出すところまで達していないのではないかと思うこともあります。すると古典邦楽の深さと重さを熟知している(つもり)の私には、音楽が浅く感じられるのです。それとも意識的にそれを避け、それから抜け出そうとしているのです。

うか。

不満もあり、自身迷いもあるものの、私の長い間夢見て来た新しい邦楽を切り開いてくれる集団を、私は支持し、讃えます。

集団のエネルギ

私が集団に対して持つ尊敬の第一は、集団全体にみまざるエネルギです。「邦楽現代」二二号春(創立二五周年記念特別号)の年表(二五年の歩み)を通覧して、エネルギッシュな活動に今更ながら驚嘆します。定期公演、地方公演、海外公演、伝統音楽シリーズ、新人演奏会など目白押しです。一年に二十六回も演奏会をもった年もあります。常に新しい合奏作品を練習することは容易でないでしょう。しかも団員の多くがそれぞれ独自の活動をもつ専門家の集合体なのですから、困難は察せられます。

経営についての詳しいことは知りませんが、演奏会の開催、聴衆の確保等々、各方面にわたる事務が若い人々によって円滑に進められているように見えます。そこには集団のためという熱気さえうかがえます。「邦楽現代」をはじめ数多くの印刷物の「氾濫」です。一休財源はどこにあるのでしょうか。何かヴォランティア活動のエネルギが感ぜられます。そして演奏会にかけつけるファンの中にも。

このエネルギの爆発が、一九八一年のゲヴァントハウスでの「急の曲」であつたのでしょうか。

少ない受賞

集団が受けた賞がまことに少ないのは不思議です。一九六七年、一九七〇年の文化庁芸術祭での受賞と、一九七八年の音楽之友社賞に、一九八八年の松尾芸能賞ぐらいではないでしょうか。その代りに文化庁芸術祭主催公演への出演、国際交流基金の派遣による度々の海外公演が光っています。海外公演は、ヨーロッパ、アメリカ、東南アジア、香港、中国台湾等にまたがる十四回に達しています。邦楽の大きな団体でこれほど多く海外に勇躍したのは他にないでしょう。反響の大きさについては、集団の印刷物に紹介された現地の新聞報道などで承知しました。何よりも集団のヴァイタリティが魅力であつたのではないかと想像します。私も純古典の筆曲を紹介する小グループと何回か欧米に行きましたが、邦楽に全く無縁であつた外国人に、邦楽のよさを伝えることのむずかしさを痛感しました。集団の場合は、外国人にアピールする力が大きいと思います。集団の海外における活躍は、受賞と同様の栄誉といえましょう。

集団に求めるもの

今後の集団に求めるものの第一は、純邦楽に対する姿勢、洋楽に対する姿勢、東洋音楽に対する姿勢、ポップスに対する姿勢の明確化です。純邦楽への姿勢は一段とさびしくなつてほしいと思います。現代邦楽の基盤はやはり純邦楽にあるからです。純邦楽にのめり込むと、そこから抜

け出せなくなり、元の黙阿弥となつてしまふという心配はないと私は考えます。洋楽への偏向こそ、現代邦楽を不毛にしていると思います。安易な洋楽の混用をしない集団のこれまでの行き方には私は賛成します。東洋音楽へのアプローチは今後の課題でしょう。この場合も安易な混取を避け、ほしいと願っています。邦楽のポップス化こそ、集団にとつての難問です。私の見るところ、また私の周辺の一部の評に、邦楽のポップス化の傾向が一時見えたというのがあります。若い人達の眼を邦楽に向けようという意図からであつたのでしょうか。ポップス化はまかり違えば、集団の命とりになりかねないと、私は心配します。

最後に二つの具体的な提案を致します。まず胡弓群の発展です。北京の中国民族楽団のレコード「カルメン」(二門)をおききになったことがあるでしょうか。民族楽器のみのオーケストラでビゼーの「カルメン」第一組曲を演奏しています。西洋のオーケストラに限りなく近づけようという意図です。実際西洋のオーケストラとときどき追えるほどです。これを可能にしたのは、第一に長い伝統のある中国の胡弓(二胡・馬頭琴など)を改良し演奏技術を猛烈な訓練で高めて、洋楽同様の弦楽器群を作つたことにあります。日本の現在の胡弓では思いもつかぬことです。

日本の胡弓を徹底的に改造し、演奏技術を開発して見てはどうでしょう。撥弦楽器の箏、三味線、琵琶の

合奏では新しいものを生むのに限度があり過ぎます。あの楽しい集団のCD「ボレロ」をきいてこの感を深くしました。偏曲の姿勢が違ふのです。それにしても楽器の改良は焦眉の急だと思えます。洋楽のオーケストラを邦楽器で作ることが第一義だと申しているのではありません。中国民族楽団の彭修文氏もそう云っていました。将来の民族楽器オーケストラへの一里程だということです。それにしてもここまで徹底した中国の力に脱帽しました。

もう一つの提案は、音楽曲開発の促進です。邦楽の大部分は実は音楽でした。歌と語り物です。歌詞の明確な伝達に基盤にあります。歌詞の伝達をそつちのけにしている現代日本の歌曲とは正反対です。日本語の正しくない発音と発声で歌う、曲名以外は何を歌っているのかわからない近ごろの歌曲をきかされると、私は「植民地」と叫びたくなります。発音の誤りは言語同断ですが、もつとむづかしいのは発声の問題です。邦楽はほとんど地声(胸声)で歌います。アメリカのフォークやポップスを含めて世界の歌のほとんどは地声です。ベルカント唱法(頭声)は洋楽の一部に使われているのであって、唯一の普遍的な原理とは思えません。昨年邦楽家平井澄子さんのリサイタルで、邦楽の発声の訓練をうけた洋楽の音楽家が、平井さんの作曲を歌いました。発音発声ともに上出来で、音量も十分ありました。やれば出来るのだと思つたことです。



中島靖子
生田流正派家元

度量の広さで邦楽界に 寄与する正派邦楽会

山岡 正派音楽院というのはお父様の雅楽之都先生がお作りになったんですけど、大変な足跡を昭和の邦楽史の中に残してらっしゃいますね。それが平成に受け継がれていくわけですが。

中島 今年はおかげ様で三十周年。山岡 卒業生は何人くらい。

中島 もう二百人近くなるかしら。ほとんどね、NHKの育成会に。

山岡 育成会の試験やりますとね、毎年三十〜四十人位取るのに百何人くらいの応募者がありますよ。

そのうちの多い時は三分の一、そうじゃなくても四分の一くらいまでは皆正派音楽院の在学またはこれから受けるという方。そうかと思うと卒業された方も。

中島 ええ卒業するにたいして育成会へ行って少しよその世界もみて。

それからそれぞれの国へ帰るといいう方が多いようです。

山岡 てすから随分正派から優秀な方が、しかもそれが強いのは古典がいて現代の新曲を五線で弾く方もいらっしゃる。後藤すみ子さん、宮本さん、友淵さん、大久保さん、高畑さん、山本邦山さん、本当に昭和の邦楽界のお琴・三味線・尺八、三曲の半分以上は正派のお力ですね。

中島 とてもないです。

山岡 学院ができて三十年とおつしやいましたが、その前にもあったわけですよ。

中島 正派邦楽会はもう七十年くらいになるんですけれど。

山岡 譜面による教授法をとられたのは音楽院になってからですか。

中島 いいえ。大正の初めから、やっぱりこれからは譜面を使っていかなければいけません。父は大変な苦労をしたらしいです。その時に古い曲と、同時代の宮城道雄とか大阪の方の菊原さん、盾山登さん、それからもうちよつと後、久本さんとか宮下秀彌さんとかが作曲したものを会員に教えていました。

山岡 本当にその辺がおえらいなあと思うのはね、宮城さんの曲に加えて、全然違った山田の宮下さんの物もお人れになるというその度量の広さですね。どうしても邦楽の世界、たて割りでございますからねえ。日本音楽集団ができた頃、練習場を提供したり、色々便宜を圖っていらしたそう。

中島 ええ、あの頃の内弟子さんは色々聴けてよかったですよ。

お稽古人口が広がって 邦楽が発展を

山岡 今は正派音楽院は学校制度をとっていらつしやいますけれども、家元は靖子さんで。

中島 ええ。主人の唯是はフリーの人間で、のびのびと好きなことをしています。

山岡 それはいいことですねえ。それで名取試験は一応古典の物で。

中島 古典も新しい物も色々。学科の方もやっていますし、音楽院というのには正派という大きな流派の中の一部なんです。本当に素人でお琴が好きでやっている人口が多いんですね。その人口が大切で、専門家はかりじや絶対に邦楽は発展しないと

思っているものですから。

山岡 確かに演奏だけでこはんが食べられるっていう状態は邦楽の場合、まず少のうございませう。それにやっぱり、お稽古人口というのは大事ですね。お稽古することによって広がっていくんですから。

中島 演奏で食べる人は本当に何%、でものでしょう。だから、皆一所懸命お稽古していると、こういう邦楽の社会の先輩、後輩っていう長幼の序みたいなものがありますけれど、それと別に専門の勉強している子は実力があるんだということを先輩が認めるようになってきたんです。長い年月がたって、そうなるってとお互い認め合ってますね。若い人たちも先輩を、やっぱりうちの先生どつかえらんだなあとかね。

山岡 家元制度があったから日本の芸が、それこそ譜面もなにもないものが伝わってきたということは非常に大事な歴史的事実だし、そういう意味で家元制度はなくしちゃいけないと思うんです。

中島 そうなんです。家元という言葉が出ると、封建的というレッテルでそう思い込んでしまっていますけれど、共存共栄の世界で一人では何もなくても、たくさんやっていると何かそれが力になるっていう意味で、家元制度がなかったら、私たちの伝統はこれだけ一つの強い集団の力になってこなかったんじゃないかと思うんです。

山岡 本当の家元っていうのはどういうことがあるべきなのか、もう一回考える必要があるでしょうね。で一方に近代的な学校制度というものも共存しようと思ってるんですね。そのお手本が正派音楽院で、これはやっぱり家元さんのお人柄が非常に影響すると思うんですよ。家元に人を得ていると、これはうまく作用するんですね。

談

中島靖子



自分の育てたお弟子 には信頼を持って

中島 うちなんかだと、例えば後藤すみ子さんが四人の全て、宮本さん、木村さん、宮越さん、櫻井さんが日本音楽集団で活動してくるでしょ。

山岡 それがまた栄養になるわけですね。
中島 すごく苦勞して捌んだものを、また人を育てる時に教えてくれるでしょ。だから、全部こう抱え込んでて自身の力がそんなにないのに自分より下に置いておこうと思うと絶対に戻ってくるものはないけれど、違った所で育つたものを出して貰っているから得してるっていつたら変なんでしょう。

山岡 靖子さんはこれだけご自分の力を云の上で持ってるしやる上にこのお人柄でしょ。それでこういう風に自由にのびのびと自分の派の方をいい意味で泳がしてらっしゃる。
中島 ええ、自由ばかりがいいのではないんですけど、力のない人を自由にさせるのはよくないし、その見極めをちゃんと持っていないと、うちは歴史があるのと全国に散らばってるので仲間はとも教員はあるん

対

山岡知博



です。ですからそれぞれが自分の荷物は責任を持って持ち歩いてる人たちがたくさんいますから、絶対こうしちやいけないということとは出さなくとも、自分の育てたお弟子は責任持って歩いているだろうことはまあ信頼感で。

山岡 師弟の信頼関係というのは非常にいい言葉ですね。
現代に生きる力を持つ三曲界に期待

現代に生きる力を持つ三曲界に期待

山岡 今の邦楽界と将来については如何でしょうか。他のジャンルに比べて三曲界はまだ現代に生きる力を持っていますね。どうしてなのでしょう。

中島 一つは、専門家でない人口が多く、それを大切に思っている点があると思います。そうすると、専門家になる素質を持っている人もそれだけたくさんある訳で、その中で力のある人は自然とどこかで花が開いてきますし、今若い人たちが専門家になろうという人が多いし、発表する場を自分たちで作っていますし。

山岡 三曲界の方は全部自分の力でやってらっしゃいますねえ。
中島 まだこんな程度なのに顔出すのは早いよと厳しくなる先生もいらつしやいますけれど、やりたい意欲をなくしちやうといけないから、少々違った方向行っているみたいでもあんまり気にしないでいいんじゃないかと思うんですけど。

山岡 育成会で皆集まることによって、種目別の縄張り根性がとり払われて邦楽全体の垣根がとれて来たり、譜面をいい意味で効率よく使うなど、邦楽は戦後前進しましたね。
中島 そう思います。広がったスピード感のある時代に割に早く自分を出せる場所があつて、今度じっくり何十年もかけて自分でやっていく技術的にはいけてもそれがその人の芸になっていくかどうかはまた別でしょうけど。

山岡 そこがまた難しい所ですね。今若い方のリサイタルに伺っても皆さん達者にお弾きになりますね。昔の人だったらできなかったことをやってのけますからね。でも芸にする

のはこれからなんです。
中島 戦争前くらいの時代の三曲界というのはそういう意味ではレベルが高かったですね。それがずーっとなくなっていく加減になった時代があつて。
山岡 要するに戦争が災いしています。あのブランクは大変なものです。その空白を埋める為に始まったのが育成会であつたんです。戦前のキラ星の如くって感じが今まだ復活してないんですけど、また別の新しい芽が今どんどん出てきていま

山岡 要するに戦争が災いしています。あのブランクは大変なものです。その空白を埋める為に始まったのが育成会であつたんです。戦前のキラ星の如くって感じが今まだ復活してないんですけど、また別の新しい芽が今どんどん出てきていま

山岡 要するに戦争が災いしています。あのブランクは大変なものです。その空白を埋める為に始まったのが育成会であつたんです。戦前のキラ星の如くって感じが今まだ復活してないんですけど、また別の新しい芽が今どんどん出てきていま

中島 やっぱ普通の学校教育の中で、先生が素人でよから邦楽器を使って教えて下さるのが一番良いと思うんです。それに三曲協会では、大きな先生方が流派の垣根を越えて皆で一つのことをやろうとする動きも出てきてるんですよ。
山岡 明治以降百年ちょっとたつてやっと今反省期に入つた所でしょうね。非常に明るい見通しになってきていますよ。平成元年、これからスタートだという所ですね。

中島 やっぱ普通の学校教育の中で、先生が素人でよから邦楽器を使って教えて下さるのが一番良いと思うんです。それに三曲協会では、大きな先生方が流派の垣根を越えて皆で一つのことをやろうとする動きも出てきてるんですよ。
山岡 明治以降百年ちょっとたつてやっと今反省期に入つた所でしょうね。非常に明るい見通しになってきていますよ。平成元年、これからスタートだという所ですね。

中島 やっぱ普通の学校教育の中で、先生が素人でよから邦楽器を使って教えて下さるのが一番良いと思うんです。それに三曲協会では、大きな先生方が流派の垣根を越えて皆で一つのことをやろうとする動きも出てきてるんですよ。
山岡 明治以降百年ちょっとたつてやっと今反省期に入つた所でしょうね。非常に明るい見通しになってきていますよ。平成元年、これからスタートだという所ですね。



山岡知博

邦楽研究家
(元NHK邦楽ディレクター)

現代邦楽事情

その6

邦楽ジャーナル編集長

田中 隆文

【分衆の時代】

—その5—を書いて早や一年になる。前回は「天皇の重体で、歌舞音曲」の白蘭、取り止めが相次ぐ異常事態が続いている」というところで終わっているが、さて、昭和天皇は今年一月七日崩御され、その異常事態は一応の終結をみた。時代は昭和から平成へと移行して九ヵ月、信じられないのは、各界の神様と呼ばれた大御所が、何か申し合わせたかのように相次いで亡くなったこと。筆者の記憶にあるだけでも、芥川也寸志・手塚治虫・松下幸之助・美空ひばり・尾上松緑・カラヤン……日本の首相は竹下・宇野・海部と変わり、先の参院選では与野党が逆転するという、まさに時代の転換期というか、激動の時代を思わせる。

文化に目を向ければ、大衆に対する分衆という言葉が根付き、個の時代の定着を思わせる。ロック系アマチュアバンドブーム、カラオケのますますの人気を見れば、鑑賞することよりも、鑑賞される方向に大勢が動いているようだ。

前置きが長くなったが、邦楽界（特に尺八・箏）も例外とは思えない。ここ一年のミニコンサートやライブの増加（東京を中心に）を見ればよく分かる。その主役は二十代・三十

代の若手演奏家だ。以前なら、おそらくまだ未熟ということ、会を開くことを控え（させられ）ていたところだろうが、これは師匠の手が若手に届かなくなってきたとみるべきか、あるいは理解を示しているともみ

べきか。この流行うこの要因の一つに、他ジャンルとの自由な交流がライブ活動を中心に活発に行われてきたことがあげられるだろう。それは取りも直さず、邦楽（器）が外部から注目を集めだしてきたことに他ならない。（何せ「イカ天」に尺八バンドが出る時代だ）

ということ、今回は若手の活躍ぶりを中心に、具体的に筆をすすめていきたい。

【オリジナルで勝負】

ライブ活動で目立つ人の名をあげるとするならば、まず何といっても尺八の中村明一だ。彼の場合、アメリカで鍛えてきた即興と作曲を活かしながら、一ヶ月に四・五回のペースで、それぞれ違ったグループと違った企画でセッションを行っている。その人脈の幅広さは驚くべきものがある。尺八の方では他に、今度CDとテープが発売される予定の三塚幸彦、メロディアスで親しみやすい旋律のオリジナル曲や編曲もて人気上昇中。また、名古屋を地盤にシンセサイザーを使ったオリジナル活動

を展開する矢野司空、東京・北海道をまたにかけて活躍の場が目立ってきた菅原久仁義らがいる。

箏の方では、新作を次々に発表し、その講習会に引っぱりだこの吉崎克彦、外部でも評価の高い栗林秀明、最近、箏・十七絃の他、十六絃を用いてオリジナル活動を展開し始めた水野利彦が目立つ。三人とも自作曲が大日本家庭音楽会より出版されている。

【一年で四万冊】

吉崎の売れっ子ぶりについて、少し言及してみたい。彼の作品はこの二年間で、二十曲に及ぶ器楽曲の楽譜と十七絃の教則集一冊が三期に分けて刊行され、それに準じたカセットテープも四本発売されている。また驚くべきことに、楽譜は二年間で一合わせて四万冊以上が売れ、九月に発売された第三集のテープにおいては十日で、楽譜（六冊）は半月で初版を完売するという、邦楽出版界ではこれまでに見られなかった事態が起きている。人気の長沢勝俊の作品は、すでに行き渡っているせい

か、売り上げて追い越されてしまった。当然、吉崎に入る印税も月二十万円は確実で、邦楽界としては異例中の異例だろう。筆曲人口の低迷が叫ばれて久しいが、それは一般にとって魅力ある曲の欠落が要因の

一つと考えるなら、吉崎のこの時期の出現は大きな力となるだろう。

吉崎は言う「四万冊というけれど、たかだかと考えた方がいい。まだまだ可能性は残されている。そして、この世界でカネが稼げると分かれば、みんなもつとやる気を出して活発になるはずだ。だから僕はリッチでなければならぬ」

何の世界でも普及と発展を考えた時、スターの存在は必要不可欠だ。宮城道雄にしろ、沢井忠夫にしろ、時代を切り開いたスターは、必ずオリジナルリタイヤーと個性を持っている。吉崎を含め、これまで具体的に名をあげた人々にはこの二つの要素があるわけで、目立つということでは当然か。この一年はオリジナルの強みが発揮された年と見ることもできるだろう。

【三味線の立役者】

筆ではこの他、木村玲子・宮越圭子らの演奏が目止まる。また山田流華曲の名門を若くして継いだ四世萩岡松韻は、来年、先代の作曲した曲を伊藤部昭に編曲を依頼し、オーケストラと協演するというから、古典派と言えど、その進取の気性に現代の家元を感じさせる。

三味線では、五世常磐津文字兵衛をいずれ継ぐであろう常磐津紫弘が、十月七日、神奈川フィルと、その中

村三味線で「相響」を協演した。前月には彼の作品演奏会が開かれたが、その姿勢は邦洋を問わず、種々な楽器を取り入れて三味線の可能性を追求しようとしている。地歌系では藤井泰和がいる。海外公演もよくこな

し、国内での活躍も目を引く。五月に七代目を継いだ清元延寿太夫は、岡村善太郎という名の歌舞伎役者であり、テレビ俳優だった。これからの活躍に期待したいところ。義太夫なら鶴澤悠美（田中悠美子）。八月、新橋演舞場での「天下御免」で現代語による義太夫に挑戦した。三味線の現代もので目を引くのは工藤哲子。九月に筆の山田明美と「三日間連続コンサート」という、異例で意欲的なコンサートを開いた。そこで生まれた曲も二曲ある。津軽三味線では佐藤通弘、尺八の中村と同じように、種々な楽器と数多くセッションをしている。岡田修は一匹狼的存在として活躍著しい（尺八の三塚と組んだりもしているが）。六月に上映された「夢の祭り」でも、音楽担当としてその力量を発揮した。

尺八、箏、三味線と順を追って書いてきたが、この他では、琵琶に関川鶴祐・後藤弦城・坂田美子が、筆に宮田まゆみがいる。また民謡の伊藤多喜雄、浪曲の國本武春はすでに、現代民謡・現代浪曲の旗手として、そ

邦楽 Journal Hogaku ジャーナル

尺八・箏・三味線の
月刊イベント情報誌
includes information
in English

全国から集めたホットな
コンサート情報を中心に、
今注目する演奏家への本音の取材、
邦楽の不思議な特性の解明、
邦楽界の諸問題等、
身近な邦楽情報を満載！
今、邦楽はおもしろい。



●バックナンバーのご案内

- 34号(89年11月) 家元制度を考える
- 33号(89年10月) 邦楽の仕掛人たち
- 32号(89年9月) どこがどう違う
- 31号(89年8月) 大衆と邦楽
- 30号(89年7月) 日本の音楽文化
- 29号(89年6月) 子供の音楽
- 28号(89年5月) 琵琶
- 27号(89年4月) こんなアイデアはいいか?
- 26号(89年3月) 邦楽のプロとは(後)
- 25号(89年2月) 邦楽のプロとは(前)
- 24号(89年1月) 正月の音
- 23号(89年12月) 忠臣蔵

定価=450円
年間購読=5400円
半年購読=2700円
(送料サービス)
★26〜18号までは定価350円

発行/邦楽ジャーナル

〒169 東京都新宿区高田馬場3-39-9
グリーンハイツ202 ☎03-360-1329
郵便振替口座:
東京3-361943 邦楽ジャーナル
★お求めは全国の和楽器店、
または直接邦楽ジャーナルにお電話を。

の名を邦楽界だけでなく、一般に知られるところになってきていると言っ
てよいだろう。

【今年の出来事】
この文章は、若手、に焦点をしば
って書いたものだが、この一年全体
をふり返れば、三橋貴風・吉村七重
・田嶋直士・堅田啓輝・沢井一恵・
野坂恵子、らの活躍を抜きにして
語れない。年齢という点で、この項
ではこの助弁願いたい。

ちなみに、今年(と言ってもあと
二ヶ月あるが)の邦楽界の主だった
出来事としては、日本音楽集団二十
五周年を記念する国内外の大きな活
動、沢井華曲院創立十周年を記念し
ての全国で展開する数多くのコンサ
ート活動、岡山県で「現代の邦楽フ
ェスティバル」全国高等学校総合文
化祭」等、ビッグな会が続いたこと、
尺八でも箏でも講習会が頻りに行わ
れ、そこに人がいつも集まっていたこ
と、「沢井忠夫ビデオ」「三曲合奏
大全集」「現代箏曲CD選集」(十一
月)「シンセ箏」など、八万円前後の



吉崎克彦



中村明一

日本音楽協会に属する合奏団「グ
ループ・みずほ」が今年十月、創立
十周年を迎えた。日本音楽協会の活
動や、「星組合奏団」、合奏団「たあ
く」らの結成に刺激をうけた東海三
県在住の若手邦楽愛好家ら十七名は、
一九七九年十月、塚本早苗氏(元日
本音楽集団団員)らの呼びかけもあ
って、現代日本音楽の研究、創造、
発表、普及を目指す邦楽合奏団「グ
ループ・みずほ」を結成した。

組曲「人形風土記」(長沢勝俊作曲)
を手始めに、デイヴエルテイメント
(佐藤敏直作曲)、ダンスコンセルタ
ント「四季」(三木稔作曲)、「大津絵
幻想」(長沢勝俊作曲)といった、い
わゆる現代邦楽の代表的な曲を手

にして、水野正徳を中心に、名古屋、
東海地方で活発な活動を展開し
ていることは大いに評価されるべき
ことである。

十月二十九日、創立十周年を記念
した第五回「グループ・みずほ」コ
ンサートが、名古屋芸術創造セン
ターで開かれ、「木もれ陽」(内田と
も子作曲)、「箏と十七絃による三重
奏曲」(藤井凡大作曲)、「子供のた
めの組曲」(長沢勝俊作曲) 他が演奏さ
れた。



演奏中の「グループ・みずほ」

創立十周年を迎えた日本音楽協会合奏団 「グループ・みずほ」

商品が次々に売り出され、反響をよ
んでいること、などがある。

日本音楽集団定期演奏会から

第106回定期演奏会

合唱・声を伴う作品特集

上野 晃

昭和六十三年年度文化庁芸術祭協賛公演として開催された第一〇六回定期演奏会（11月9日・朝日生命ホール）は、合唱・声を伴う作品特集という趣向で、いつもとかなり異なるステージ展開。四半世紀以前の旧作から初演の新作まで、邦楽器アンサンブルと人声群とのアプローチをそれぞれに試みた四つの作品がプログラムされる。合唱は、栗山文昭の指導のもと、現代曲に意欲を見せる「ヘーロー・カロス」、総合指揮は、いつもの田村拓男。委嘱初演作の青島広志（「枕草子」）（橋本治訳）による「女声合唱と邦楽器のための」は、作曲家自身が指揮、解説もおこなう。七章ほどに分かれて小曲が並び、各曲ごとに楽器編成を異にするが、いずれにしても大きな「第一曲は、第の目で十三絃と二十絃と十七絃、第二曲では、尺八と打楽器、第三曲は、篠笛と尺八と箏と打楽器、また第六曲では、十七絃と打楽器」というように組み合わせを換えて、情趣を運びゆく。が、女声合唱がきわめて人念にしっかりと書かれているのに対し、器楽のほうは副次的、背景が点景のレヴェルに留まっているのが残念に思われた。

第108回定期演奏会

アジアの中の日本音楽 日本音楽の中のアジア

富樫 康

この日は芝祐靖、牧野由多可、長沢勝俊、王燕樵の四作品が、主は田村拓男の指揮、他は各作曲家の指揮で演奏された。順を追って記すと、

芝祐靖作曲、夷曲（「西遊記」）。氏は今は絶えてしまった東洋の古楽を、当時の楽譜から復元することに情熱を傾けている人である。これは敦煌千仏洞壁画を見た時のイメージと、十七窟から発見された琵琶調の旋律を用いた作品。従って筆、箏、胡弓を交えながら、技巧的にも当時ありし姿を想像して作ったわけだ。そう思えば、当時の人々は現時代とちがって、いかに雑事に煩わされず、また時間に追われずに、悠然とした生活を楽しんでいたかを推し測ることが出来る。牧野由多可作曲、インド旋律による「壁画」。はこの中で印度の性格を出そうとしても、日本楽器を用いるのに、日本音楽集団の音質そのものは変らない。だから結果的には日本ブラス印度という中間的性格の音楽になってしまふ。僅かに途中印度打楽器タブラを用いて印度音楽奏法をする所だけは印度そのものである。つまりこれは集団が定石を破って半分印度に傾斜した音楽といつてよいだろう。牧野は音楽を奏しきかせる才の保有者だ。長沢勝俊の交響的幻想曲「朱輪金鈴」。これは古墳から発掘された装飾品や副葬品に想いをよせた幻想曲。多量の打楽器を含めた各種邦楽器を用いて、音の色彩や多様性を奏しむ点では、まことに変化に富んだ奏しさを保有している。

第109回定期演奏会

邦楽器の祭典

富樫 康

集団第一〇九回定期は、日本作曲家協議会会員の16作品（うち12曲はこの会の為の新作初演）を集めて「邦楽器の祭典」と題して、作曲家自身の指揮や話を交えながら山本直純の司会で行われた（企画・構成／三木稔）。

順を追って記すと、大政直人作曲（「Lament of Ammon」）（尺八、箏）は「春の海」の曲想を現代の一層前進させた音形で書いたような作品。川崎絵都夫作曲（「曲裾の端」）（10人の管弦打楽器）は軽快な華やかさのある手際のよい曲だが、長沢作品から多くを見習った形跡がある。眼龍義治の（いのり）（管絃7人）は平調子を中心に中空調子、雲井調子が錯綜しつつ展開（解説）といつても、その中には自由で、伸びやかな羽博きがある。草野次郎の（風雲）（尺八、箏）は作曲家の言うように洋楽風の発想であるが、そこにはどこことなくフレッシュな触れ合いがあり、両者の特長が投入されているのを感じる。小橋稔の（火男）（管絃打7人）は一寸ひねくれた音形、ふざけた書法で滑稽味を出した作品。生来笑いを好む作曲家の性格がよく表れている。青木暢男の（祭りの幻想による序章）（管絃打10人）は平和な祭りの気分が、多彩な手法で描かれている。見目順一郎の（風）（尺八、箏、琵琶2、打）は尺八の達磨鳴りは人生の哀感を呼びおこし、琵琶と鈴はそれを強調する。更に全合奏でドラマ性が附加される。特徴のある曲。宮城純一の（シータ舞）（管絃打8人）は笛の円満な中国的モードを奏で、箏は賑やかな粉圓

気を醸成する。支那の祭りというべきか。下山一二三の（カタリシス・第3番）（笛、三味線、箏、打各1）は謡曲の緊張した旋律。それに斉唱とかけ声が入り、一層日本的緊迫感を増す。全体に強烈なインパクトを含んだ曲で秀逸。鈴木英明の（律）は尺八、箏3とも各奏者の特質が巧みに生かされ、有機的に作用して調和の美を形造っている。杉浦正嘉の（更衣）は能管（西川）と鼓（細谷、望月）の織りなす佗びの情感の一端が表れてユニーク。中村晃也の（変様）は一種異様な曲。作曲家は弦楽四重奏（つまり洋楽）を書くのと変らないというが、尺八の三橋貴風はその楽曲の中にある魔性を引き出して、恰も忍者が変身するかのごとく変幻の世界に乗り移ってしまったのである。これほど奏者の自在性が物言う音楽も珍しい（箏白根きぬ子）。増本伎供子の（小さな風）（尺八、箏2）は二管の尺八の揺れ動くユニゾンがユニークな美を創り出している。綿村松輝の三本の尺八のための（序）は尺八が奏するゆりに特色を持たせたもの。柳田孝義の（破黒山水図）は題名を考えに入れないながら尺八と鼓2によるこの音楽をきくと、墨絵の風景画を知る日本人にとつては、ピッタリするものがある。山本直純の（平成元年のための已楽）（14人の管絃打）はテーマのはっきりした劇音楽風の曲。奏琴（深草アキ）が入るので一層楽しさを増した。

以上16曲の参加演奏は集団の会に一陣の新風が注がれた感じで、思いのほか傾向の作品もあり、有能な作曲家がいることも知った。邦楽器へのアプローチに意欲のある作曲家への開かれた窓として今後も続けてほしい祭典である。

（7月4日、パリオホール）

真山

日本の響
真山銘尺八

〒561 豊中市服部本町5丁目5-6
TEL(06)863-0564

デザイン
永谷 繁山

笏山銘尺八

琴古、都山各寸美麗仕上
特製品煤竹も各寸揃います。

木村 笏山

〒379-16 群馬県利根郡水上町谷川437

TEL.0278-72-4108



指揮・青島広志

琵琶、二十絃、十七絃なども参加の、ほぼ標準編成ながら、横笛（竹井誠）と尺八三本（三橋貴風、素川欣也、米澤浩）の絡まりによるポリフォニックあるいはヘテロフォニックな力強い流動が際立つ。

プログラムの最初は、長沢勝俊（へ子供の四季）だった。日本音楽集団が発足してまもない一九六六年の作曲だが、のちの規範となる標準編成を予見している。季節に因むわらべ唄や祭の掛け声などを女声合唱がうたい、その変奏のような展開を邦楽器アンサンブルが受け継いで進み、季節感と風物詩を映す。また最後の三木稔（くるだんど）（奄美の旋律）による混声合唱のためのカンタータは、さらに以前の六三年作。日本音楽集団結成の導火線にもなった由来の曲。等は十七絃しか使われていない。合唱と邦楽器群は相乗的に、南国情緒と燃え上がる鼓舞を昂揚する演奏で終わらせた。

だがリズム（時間や間のとり方）の点で全世界の作曲家が、日本やガムランの音楽に触発されながら、新しい音楽創造に腐心している問題が、長沢作品ではなおざりにされている点が指摘される。

王燕樵作曲「十面埋伏」は中国歴史上有名な「垓下の戦い（紀元前）」を描いた古典琵琶楽を作曲者が日本に紹介する為に書いたという珍しい作品である。いかにも物語を追いながら音楽が進められており、中国の色々な音階が出てくるし、われわれにはない中国流の音楽表現の仕方は独特なもので面白い。原曲は琵琶独奏曲で、それを集団25人の編成に直したわけだから、この方が遙かに多彩で興味あるものになったものと考えられる。

（5月9日、朝日生命ホール）



指揮・牧野由多可



カーテンコールに応える作曲家たち。前列左から三木稔、山本直純

オランジュ（南仏）古代劇場に「急の曲」の響き

平安京スベクタクル・フランス公演
（日本音楽集団第十五次海外公演）
報告

日本音楽集団
第十五次海外公演

報告

坂井敏子

東西交流の難いを込めて作曲された「急の曲」が、今夏一層大きな輪に広がり、伝統芸術を綱羅し、京都を中心として平安京スベクタクルとなり、フランス革命二百年祭の為に公演旅行が行われた。

七月十三日、白夜のバリに到着。
シャンゼリゼをはじめ大通りは通行
止めて記念祭順備の真最中。

七月十四日パリ祭。当初バレード見学の予定が、予想される雑踏をさけ、ノートルダム寺院、オルセー美術館、モンマルトルの丘などに変更。昼食のワインやビールの乾杯のあと、いっしょに京響の人々とうちつけ、それらの音楽の話などに華が咲き、「急の曲」の演奏の交流が深められるであろうと云う気分になって来た。

十五日、日本の新幹線より速いTGVにて一路南へ。煙、煙、煙、三十輦位の背の低いひまわり煙、葡萄煙が車窓を飛ぶ様によぎる。十六日午前「アビニヨンの橋で踊ろよ踊ろ」ロス河巾の途中までしか残って居

ない半分毀されたアビニヨン橋。川
向は仏王殿こちら側はローマ法王殿
一わたり眺め、せかされく集団た

けの練習の爲又、バスで草原を走る見渡すかぎり何も無い処にガラシと大きな体育館の様な建物、エキスポ会館に、外はじり／＼と南の太陽が照りつけ、内ではジリ／＼とした気分で一時間近くも楽器到着を待ちつづけた。急の曲と新八千代獅子を一回ずつ練習するのがやっとで、又あわただしくコンテナへしまひ、オランダへ移動。夜はいよいよ本会場のリハーサル。

アンティック・シアター。千九百
年の昔、ローマ帝国軍の侵略によつ
て建てられた、高さ三十六米。八千
人収容の巨大な石造、半円劇場。舞
台中央上に當時のオーギュスト皇帝
の像が建ち、その後、ローマ皇帝の
変る度に首だけずいばえて来たとの
事。大遺跡でありながら、今日に至
るまでずっと使われ続けて来た長い長
い時の流れがこの積み上げられた石

の一つ一つの中にしみ込んで居り、私達は古代の空氣につつま込まれた様な氣分であつた。

十七日、夕方からゲネプロ。南仏名物の強い風が吹きまくり、講面台もなぎ倒される始末で、何もかもガムテープで止め、講面の上には錘をたらしした紐をかけ万全の策を講じた。夜十時、いよ／＼本番。白夜も此の頃には暗くなり、古代遺跡に照明の当った部分だけ浮上り、陰影の深さに一層神秘的な雰囲気をもたせ現代を忘れてしまいうような気分になり込まれた。

開演、「五段砧」(花房・内藤)の筆の音が、闇の中のすみずみにまで美しく響き渡り、香道が始まる。振袖の京娘が香炉を持ち、客席へ廻る。香水の国フランスでは、此の香を聞くと言ふ感賞も理解出来る事と思ふ。また、五段砧の鳴りひびく中、華道に移り、大きな流木に一本一本色々の花を、踊るが如く振りつけながら活せて行くパフォーマンス。次に京



オレンジ 古代劇場のステージで演奏する京都市交響楽団

琴・三絃 一 藤

ローン・下取り・修理致します。

〔八千代店〕 千葉県八千代市八千代台北
17-16-13

☎0474-84-8859

〔調布店〕 東京都調布市上石原
1-6-14

☎0424-84-0092

祝・日本音楽集団創立二十五周年

和楽器専門店

老舗

KK金善楽器店

京都市東山区大和太路通り四條下ル二丁目亀田町五七

TEL

(075) 五六一—二九四〇 五四一—一〇九三
五二五—一三七五 (夜間)

都のスライド映写があり、やがて、上手から能管(西川)の響が此の遺跡に立ち向うかの様に遠々と、又或る時は寥々として、長い／＼歴史の中まばたきの様な短い命の儚さを歌う様に、音の流れはいつしか舞台中央の書道へと受けつがれた。大きなパネルの上を、筆の様な筆をもって走り廻り、風と云う字が出来上った。風韻悠長の風だそう。正に此の場にピッタリの書である。いよいよ集団の「新八千代獅子」日本楽器だけによる古典形式の合奏を聴衆はどの様に感じたであろうか。終って琵琶一人(半田)華の前で演奏。どの様に強い音を出しても、あくまで静の世界。どの様にかそけき音でも、

しんの強い、やはり静の世界。これ等の織りなす線が、此の荒々しいまでの動的な遺跡に対し、一段と神秘的に響き渡った。その間にも次の新能「石橋」の為のかがり火が焚かれ、観客を日本の中世の世界へとみちびき、白、赤の獅子頭のきび／＼とはりつめた舞に、洗練された中にも不思議な世界へと誘った事であろう。休憩後は伝統から現代へ変る。シェーファー作曲「香を聞く」の演奏に先立ち、香手前、薫香。香が京響のメンバーの一人一人に廻され、まるで香が立ちのぼる様に、いぬとはなしに演奏が始まる。その間に香が廻って来ると楽器の下に置き、香道の作法に従って聞香、次々と廻して

行く。音楽は香の煙が風に流れる如く、たゆたう如く進み、いつの間にか終って居た。湧き上がる様なオーケストラの音と、けたたましい大拍手のひびきで「急の曲」が始まる。やがて総ての音が止み、細かくきざむ琵琶の静かなはりつめた音に、緊張感が背すじを走る。十七絃(内藤)とチエロとの対話が、演奏者によって色々に変わるのも面白く、折り合い、よろこび合い、うかれ、はげしく燃えながら、融合に向けて、「急の曲」はひたすら走りつづける。アンコールは「八木節」。

当夜入場の四千を越える異国の人々も、演奏者と同じ心で心はせたのであろう。立上って大きな拍手が鳴りひびいた。終演は午前零時過ぎ、楽器、衣装の精進を終え、ホテルへ戻ったのは午前二時頃であった。十八日、バリ市長レセプション出席者は朝六時空路にてバリへ。ゴッホ等に囲まれたのどかな南仏の空気に、あと半日なりとも浸って居たいと心を残しながら八時には出発、再びTGVにてパリへ。ホテルにチェックインするや、ただちに会場パレ・デ・コングレ(四千人収容)へかけつける。公演は総て前日と同じだが、伝統のパフォーマンスは、古代劇場の方がより効果が有ったと思う。「急の曲」は「バリの方がより深く感じとられたのではないかと、客席からの空気や拍手の中にも感じられた。



書の前で「新八千代獅子」を演奏する日本音楽集団

アンコールも、もう一曲欲しいと思った。ここでも開演前に四千人で一杯になったとの事であった。移動等で大変あわただしかったが、感銘深い旅であった。

美恵子の三味線みてある記 6

野口 美恵子

平安京スベクタクル京都公演が、九月二十三日夜、平安神宮大極殿前の特設ステージで行われた。

六時の開演と同時に、舞台両側のオーロラビジョンには、今夏七月、同企画フランス公演のVTRが映し出された。ファンファーレと共にレジー光線が天空へ走り、光に浮かぶ朱色の大極殿を背に幻想的なスベクタクルが繰り広げられた。

先ず日本音楽集団が「巨火」を演奏する。続いて舞台は、イギリスのM・ウィッシャー氏のシンセサイザー新作「KYOTO」、金剛水産師の演劇「半部」はしとろ、ソ連の十一才の天才少女ピアノリスト・ミチエ・イナさん、京都市交響楽団の「京都幻想」(外山雄三作曲)、そして京響と日本音楽集団の共演で「急の曲」(三木稔作曲)と進行した。それは、国際文化都市京都で、現代に生きる伝統と、時代の先端をいく音が融合したユニークな場となった。古今の融合は、未来に向かって無限の可能性を秘め、それが新しい伝統となっていく証しにも思える空間であった。

アンコールの「オーケストラのためのラプソディー」では、京響と共に日本音楽集団も「八木節」を演奏し、万雷の拍手が湧く。指揮の小林

研一郎氏は熱演し、ステージで羽織った祭の法被と豆絞りで汗びっしょり。沢山の火花やドライアイスに包まれ、大きな拍手の中、無事公演できた喜びの笑顔に、私も嬉しくなる。古都の秋、京都では初めてというこの野外ステージに繰り広げられた音と光の交錯を、五千五百人の観客も充分堪能したようだった。

裏話。本来この公演は、前夜二十一日に行われるはずだったため、集団のメンバーは、その前日の二十一日に京都入りしていた。ところが、二十一日午後二時半、京都南部に大雨洪水警報が出て、企画運営本部よりホテルに待機するブレイヤーに、「本日中止」の報がまわった。あとで晴れたものの、その時はものすごいどしどし降り……。結局一日無駄になったが、おかげで平安神宮の奥庭を散策したり、三十三間堂、河原寛次郎記念館を訪れ、南禅寺では湯豆腐を食べることもできた。

二十一日夜には、京響のコンサートマスター工藤氏の誘いで音楽集団のメンバー有志がスナックへ……。フランス公演で旅を共にして以来、久々に顔をあわせて話がはずんだ。私達も望外の歓待をうけ、フランス公演の折のスナック写真をいたいた

たり、夜遅くまで、大変楽しい一時を過ごした。

歴史ある京都で、京響の皆さんと再び共演でき、しかも古い知友のように親しく歓談できたのは、嬉しいことであつた。

今後、創立二十五周年を迎えた日本音楽集団も光栄し、未来に向かって増々飛躍せねばと思うこのころである。



平安神宮特設ステージで「巨火」を演奏する日本音楽集団

ぽんげん抄

一衣帯水

韓国語の「ありがとう」は「カムサハムニダ」で、「カムサ」は「感謝」なのである。

たとえば生まれたこともが奥さんにそっくりの可愛い子だったとして、夫が「母親似の可愛い子だなあ」「ああ、かみさん似だ」と喜び感謝するような気持ち、なのである。

「アンニョンハシムニカ」の「アンニョン」は「安寧」で、「こきげんよう」「おかわりなく」というような、あたたかみのこもったあいさつの言葉なのである。

たとえば兄さんがきき腕を骨折して食事をするのも苦労しているとして、弟が「兄さんはし無理か」と気づかうような、相手を、特に年長者を思いやる儒教精神に裏打ちされた言葉であることがよくわかる。

普段は「アンニョンハセヨ」で、「おはよう」と同じように「ヨ」をのびて声をかけ合うのが清々しい。たとえ疲れている時でも、「安眠は是よ」とこちらの健康にまで気づかってくれる優しさが聴こえてきて心も軽くなる。

同じ人、同じ食卓(ご飯があつ

日本音楽集団 1988年11月の主な活動記録

11月11日(金)	大田原中学校音楽委員会	上田市民会館
11月13日(日)	上田グリーンアリーナ合同定期演奏会に出演	上田市民会館
11月17日(木)・18日(金)	市川市立中学校音楽委員会(4回)	市川市民会館
11月21日(月)	藤枝市女子高等学校音楽委員会	藤枝市立小中学校
11月23日(水)	富士見教育フェスティバルに出演	藤枝市立小中学校
1月20日(金)	藤沢市市民会館小ホール	藤沢市市民会館小ホール
2月2日(木)	藤沢市市民会館小ホール	藤沢市市民会館小ホール
2月10日(金)	関市中学生音楽委員会	関市文化会館
2月18日(土)	十夜運轉大音楽会(第三夜)に出演	サントリーホール
3月1日(水)	吉松操作曲「悠助効果」録音(NHK FMで放送)	サントリーホール
3月3日(金)	NHK青森県音楽委員会に出演	イイノホール
3月12日(日)	NHK「クラシックステージ」に出演	NHKホール
3月19日(日)	美濃加茂市文化会館	美濃加茂市文化会館
3月22日(水)	神津書行おもしろ音楽大学	神津書行おもしろ音楽大学
3月23日(木)	沖崎ハーバービューホテル	沖崎ハーバービューホテル
4月27日(木)	アコスタディオ	アコスタディオ
5月1日(月)・2日(火)	現代文化センターコンサートシリーズ①	豊田文化センター
5月9日(火)	下田市民文化会館開館記念音楽教室(3回)	下田市民文化会館
5月19日(金)	朝日生命ホール	朝日生命ホール
5月25日(木)	アコスタディオ	アコスタディオ
6月1日(木)	東京女子学院音楽委員会	東京女子学院音楽委員会
6月1日(木)	千葉県立大多喜高等学校音楽委員会	千葉県立大多喜高等学校音楽委員会
6月8日(木)	東京八ヶ岳合同定期演奏会に出演	パリオホール
6月16日(金)	上田市市民会館	上田市市民会館
6月19日(月)	上田市市民会館	上田市市民会館
6月22日(木)	アコスタディオ	アコスタディオ
6月26日(月)・27日(火)	富士見台小学校音楽委員会	富士見台小学校音楽委員会
7月4日(火)	長崎県立音楽会館(11回)	長崎県立音楽会館
7月12日(水)	新田定期演奏会	パリオホール
7月13日(木)・20日(木)	カワイ音楽教室シンポジウム演奏会	カワイ音楽教室シンポジウム演奏会
7月25日(火)	平定県音楽会(第15次)	平定県音楽会
8月7日(月)	エキコン	エキコン
8月30日(日)	アコスタディオ	アコスタディオ
9月5日(火)・13日(水)	大平町公演	大平町公演
9月23日(土)	韓国公演(第16次海外公演)	ソウル・光州・金州・省城
9月23日(土)	平安京スベクトル京都公演	平安京スベクトル京都公演
10月9日(月)	平安神宮大雄殿特設ステージ	平安神宮大雄殿特設ステージ
10月11日(水)	大和市立緑野小学校音楽委員会	大和市立緑野小学校音楽委員会
10月12日(木)・15日(土)・23日(月)・27日(金)	じやくら創立60周年アニバーサリーに出演	京都・都ホテル
10月16日(月)・20日(金)	松本県立音楽会館(15回)	松本県立音楽会館
10月30日(月)	広島県立音楽会館(10回)	広島県立音楽会館
10月31日(火)	上越文化会館	上越文化会館
11月2日(木)	城東中学校音楽委員会	城東中学校音楽委員会
11月2日(木)	上越文化会館	上越文化会館
11月23日(土)	創立25周年記念・朝日ホール5周年	朝日ホール

日本音楽集団及び団員等の今後の予定

11月3日(金)	日本音楽集団上山公演	上山市民会館
11月4日(土)	上山高校音楽委員会	上山市民会館
11月4日(土)	広島県立音楽会館(元ハートケストラのためのコンチェルト)NHK・FMで放送(元ハート・二機音楽・指揮・菅谷俊治・東京フィルハーモニー)	広島県立音楽会館
11月5日(日)・11日(土)	鎌倉市立音楽会館(演奏とパネルディスカッション(8日)・内覧等(9日)・新本音で坂田美子・10日・鎌倉市で吉村七重が出演)	鎌倉市立音楽会館
11月6日(月)・10日(金)	松本県立音楽会館(10回)	松本県立音楽会館
11月10日(金)	「サントリー」ホール3周年記念コンサートで坂田美子が、関西厚生作曲「KIRO」を、チエロの「ヨ・ヨ・マと共演(サントリー・ホール)・同じく、13日(月)に松本美子と共演(モーツァルト・サロン)	サントリー・ホール
11月11日(土)・26日(日)	ユーロパリア99でパネル公演(20回)	ユーロパリア99
11月17日(金)	東京リグー・タワーズ・九二五・定期演奏会で長崎後援作曲「谷川俊太郎作詞「わらべうた」を演奏(奉還・初演)	東京リグー・タワーズ
11月30日(木)	学術院百周年記念演奏会	学術院百周年記念演奏会
12月3日(日)	アコスタディオ	アコスタディオ
12月8日(金)	安城市文化センター	安城市文化センター
12月12日(火)	日本音楽集団安城市公演	日本音楽集団安城市公演
12月12日(火)	津田ホール	津田ホール
12月18日(月)	「現存の音楽展89」で、三機と白根きぬ子が中村晃也作曲「気持」演奏	石橋メモリアルホール
12月23日(土)	カンマーザール・冬の芸術フェスティバル	カンマーザール
12月24日(日)	山田明華さんにこんなあとV	山田明華さんにこんなあとV
1月15日(月)	成人式コンサート	国立市民会館小ホール
1月21日(日)	花巻はるえ・サロン・コンサート	花巻はるえ・サロン・コンサート
1月27日(土)	ザ・コスモス・コンサート(録音)	ザ・コスモス・コンサート
2月1日(木)	立川NTビル内ホール	立川NTビル内ホール
2月1日(木)	常陸新聞ホール	常陸新聞ホール
2月1日(木)	カザルス・ホール	カザルス・ホール
2月9日(金)	パリオ・ホール	パリオ・ホール
2月22日(木)	関市文化会館	関市文化会館
2月25日(日)	パリオ・ホール	パリオ・ホール
3月10日(土)	岡山県立美術館	岡山県立美術館
3月14日(水)	久東母子・山岸純子ジョイントコンサート	久東母子・山岸純子ジョイントコンサート
4月26日(木)	ビブランタター(新橋演舞場)	ビブランタター
4月26日(木)	パリオホール	パリオホール
6月19日(火)	津田ホール	津田ホール

日本がまだ、国の形を成してなかった昔、渡来人と呼ばれるひとたちがたくさん文化を運んで来てくれた。文字も音楽も。当時、海を渡るの命がけであったろう。その勇気ある挑戦者たちから文化を教わり、やがて国が形づくられてゆく。「奈良」とは「国」を意味する古代朝鮮語で、この国の都が「奈良」となった所以である。奈良が中心なのである。奈良は偉い。

日本音楽集団は今年九月、初の韓国公演を行なった。実に十六回目の海外公演である。

そして、中央國樂管絃樂團と同道し、日韓民族オーケストラが奏で出す平和な楽の音を各地で響かせたのである。日韓の楽器群は実によく融けあいよく歌った。それは素晴らしい光景であった。

一衣帯水の地として交流のさかんだった昔のように、我々もさらに交流を深めよう。

十一月二日に東京で、三日には山形県上市市でこの成果が発表できることになったが、将来的な発展を是非望みたいものだ。日本海を中に置き、沿岸の町を巡視して歩くというのにも悪くない。もちろん「北」も含めてだ。

日本音楽集団も創立二十五周年を迎えたが、やることますます多くなつた。

(黒髪 望)

祝・日本音楽集団 創立二十五周年



郵船航空サービス株式会社

渋谷旅客営業部

〒150 東京都渋谷区道玄坂1-13-5

電話(03)780-2082

団体料：佐藤／木下／熊谷

最高の品質

常盤
強力[®]
琴糸

サエ グサ
三枝商店



邦楽商品券 舞鶴

日頃、邦楽ご愛好の皆様方のご要望にお応えし、
日本の音と心をつなぐ邦楽器店独自の商品券が登場いたしました。
邦楽に携わるお祝いや、
感謝のご贈答など、幅広くご利用ください。

250店舗で

●日本全国でご利用いただける邦楽商品券●

「邦楽商品券舞鶴」は、北海道から九州まで全国に網羅されて
いる約250店の取扱い店でご利用できます。
お引き換え期限もなく、取扱い店の商品、技術料、サービス料な
どとしても便利なお引き換えができます。
※お求めは、各取扱い店でどうぞ。

新典

新年度会員募集

邦楽に現代の息吹きを!!

会員による新作委嘱活動

新しい感覚の邦楽曲がほしい、入門・初級者にも弾
けて魅力のある曲がなかなかみつからない——新典音
楽協会は、そんな希望をもつ多数の会員の力を集めて、
邦楽器による作品を作曲家に委嘱し、演奏や教授活動
用の新曲を私達の手で誕生させていこうとするもので
す。流派を問わずどなたでも入会できます。

詳しくは、事務局までお問合せ下さい。

■89年度委嘱作品Ⅰ

吉松 隆 (尺八・箏二重奏曲)

■89年度委嘱作品Ⅱ

川崎絵都夫

眼龍 義治

草野 次郎

初心者のための小品集(仮題)

桜井ゆかり

宮城 純一

和田 薫

—近日発表—

新典音楽協会

〒241 神奈川県横浜市旭区菅野台139
TEL 045-364-1631

創業・昭和8年

お琴・三味線の琴栄

●東海一の実績を誇る店



◇1階・店舗

- ◇三味線、尺八、舞踊、多数陳列
- ◇お琴、三味線、尺八の付属品、楽譜 多数取扱えてあります

◇2階・お琴展示場(ミニ舞台付)

- ◇お琴、柱目琴、20絃琴、17絃琴と豊富に取揃えてあります
- ◇ミニ舞台でお琴を弾いて下さい

〈お買い求め〉クレジット販売をご利用下さいませ。(最高36回払い)
〈パンフレット〉無料送付致します。



御琴・三味線専門
琴栄楽器店

代表・増田康幸

〒500 岐阜市河町九(大宮病院前)
TEL (0582) 218265



尺八 露秋

西田露秋

〒794 今治市新谷甲 798-1

電話 (0898) 48-1097・1257

介護費用保険

新発売



健康はご家族の大きな財産。
だから備えが必要です。

- ※ 損害保険の安田火災はあなたの暮らしをワイドに補償致します。
- ※ あなたの保険設計は明和損害保険企画におまかせ下さい。

日本音楽集団指定損害保険代理店
明和損害保険企画

RM 小笠原 明男 オフィス ☎937-0547
安田火災海上保険柳板橋支社 ☎962-7311

永い伝統と経験から創り出される
豊富な“止水の和楽器”



新発売
明鏡笛(しの笛)
(正律管)
ベース三味線



しのの
和楽器



止水の和楽器 発売元

明鏡楽器

〒130 東京都墨田区横川4-1-2 ☎(03) 623-6349(代表)

信 頼 の 品 質

箏 三 味 線

田波楽器株式会社

〒537 大阪市東成区
東今里二丁目 4-6
TEL 06(976)1885
FAX 06(974)9632

—お求めの音づくり—

タクザン

澤山 銘 尺 八

尾 崎 沢 山

〒108 東京都港区芝浦4丁目2-32

東京ベイビュウ213 ☎ 03-5476-4277

田町駅(山の手線、京浜東北線)徒歩9分

三田駅(地下鉄、三田線、浅草線)徒歩12分

〒005 札幌市南区澄川4条9丁目4-10 ☎ 011-582-8119



この一瞬にこの雄大を!

宝来・宝来羅漢

中国長年の歴史から生まれたゴングの一品品...
宝来羅漢。
20年の技術の結集とクラフトマンシップから生
まれた国産唯一のゴング...宝来。
ここに品質、デザインも変わり新たに登場。
どちらも、その音色は重厚でクリエイティブな響きを
もち、クラシック・ロックなど幅広いサウンドにマッチ
します。

サイズ	品番	価格	品番	価格
32" (81cm)	G-32	¥118,000	GR-32	¥144,000
36" (91cm)	G-36	¥168,000	GR-36	¥217,000
40" (101cm)	G-40	¥220,000	GR-40	¥325,000

サイズ	品番	価格
32" (81cm)	GS-32	¥90,000
36" (91cm)	GS-36	¥125,000
40" (101cm)	GS-40	¥25,000

ゴングマウント

GM-10 (サイズ) ¥1,500

GM-11 (サイズ) ¥1,500

GM-12 (サイズ) ¥1,500

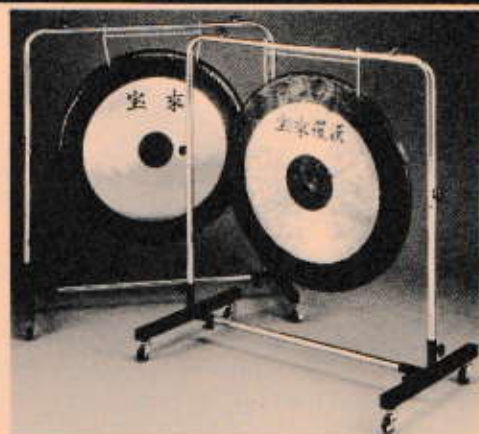
※宝来ゴングは、32" (81cm) より製造しています。別途カタログをご覧ください。

※宝来ゴングは、32" (81cm) より製造しています。別途カタログをご覧ください。

株式会社 アイダ楽器

〒131 東京都墨田区押上2-42-1
☎ 03-614-4115

●カタログ希望の方は200円切手を同封して住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、お願ひします。



邦楽器全般

わづみや楽器店

〒598

泉佐野市栄町6-11

TEL 0724(63) 1246

箏



オリジナル立奏台

二十絃箏

箏を愛するすべての人の繊細な感情を忠実に
音に表現するために、楽器の本質を追求した箏

日本音楽集団推薦

琴光堂和楽器店

東京都目黒区碑文谷2-19-15 TEL (792) 8481